

レジメン名

DBd(皮下)

出典 グラキューロ配合皮下注適正使用ガイド2021年8月作成

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

多発性骨髄腫

進行・再発
補助療法(術前・術後)

投与中止の基準

ANC	500/mm ³ 未満 発熱性好中球減少症、 感染症を伴うANC減少	PLT	2.5万/mm ³ 未満 5万/mm ³ 未満 (出血を伴う場合)
その他	グラキューロ Infusion reaction Grade1,2: 回復後、再投与可 Grade3: 回復後、再投与可(3回出現で投与中止) Grade4のInfusion reaction: 中止 Grade3以上の非血液毒性(ただし、下配を除く) ・7日以内に制吐薬に反応したGrade3の悪心又は嘔吐 ・7日以内に止瀉薬に反応したGrade3の下痢 ・ベースライン時に認められていた、又はグラキューロ最終投与後7日未満持続するGrade3の疲労又は無力症 ・多発性骨髄腫の徴候に伴うGrade3の疼痛 ベルケイド 疼痛を伴うGrade2又はGrade3以上の末梢神経障害や神経障害性疼痛		

1クール期間

1-8サイクル:21日
9サイクル以降:28日

総クール数

PDまで

(次のクールまでの標準期間)

投与減量の基準(ベルケイド)

ANC	1000/mm ³ 未満 500/mm ³ 未満の 再発	PLT	2.5万/mm ³ 未満 5万/mm ³ 未満 (出血を伴う場合)
その他	疼痛を伴うGrade2又はGrade3以上の末梢神経障害や神経障害性疼痛 減量の目安: 1.3mg/m ² →1.0mg/m ² →0.7mg/m ² →投与中止		

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1,8,15(1-3サイクル)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1(4-8サイクル)
ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼアルファ(ダラキューロ)	15mL	皮下 ^{※1}	3-5min	day1(9サイクル以降)
ボルテゾミブ(ベルケイド)	1.3mg/m ²	NS適量	皮下注射	day1,4,8,11(1-8サイクル)
デキサメタゾン(レナデックス) ^{※2}	20mg/body	経口		day1,2,4,5,8,9,11,12,15 ^{※3} (1-3サイクル)
デキサメタゾン(レナデックス) ^{※2}	20mg/body	経口		day1,2,4,5,8,9,11,12(4-8サイクル)
デキサメタゾン(レナデックス) ^{※2}	20mg/body	経口		day1 ^{※3} (9サイクル以降)

※1 臍から左又は右に約7.5cmの腹部皮下に投与。同一部位の反復投与は避ける。痛みがある場合、減速または中止し、残液を左右反対側の腹部に投与可。

※2 75歳を超える又は過小体重(BMI:18.5kg/m²)、コントロール不良の糖尿病、又はステロイド療法に対する忍容性がない若しくは有害事象を発言した患者にはデキサメタゾンを20mg/週で投与することも可能。その場合、ダラキューロ®投与前のみに20mgを投与。

※3 前投薬として

1日投与順 (経時的にプレメタキーション・ポストメタキーション、 溶解液まで含む)
1-3サイクル day1、8、15、 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分) 1-3サイクル day2、4、5、9、11、12 <内服> ・レナデックス錠(4)5T 4-8サイクル day1 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分) 4-8サイクル day2、4、5、8、9、11、12 <内服> ・レナデックス錠(4)5T 1-8サイクル day1、4、8、11、 ベルケイド1.3mg/m ² +生食適量(皮下注射) 9サイクル以降 day1 <内服>ダラキューロ投与1時間前 ・レナデックス錠(4)5T ・アセトアミノフェン錠(200)4T ・ポラミン錠(2)1T <皮下注> ^{※1} ①ダラキューロ配合皮下注 15mL/V(3-5分)